

大阪で活躍する40歳以下のクリエイター紹介冊子を発行 “プロデューサー”と“スペシャリスト” ふたつのタイプから見てくるこれからのクリエイターの在り方とは

クリエイター支援施設「クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町」(所在地:大阪市北区 所長:堂野 智史、以下メビック扇町)は、大阪で活躍する40歳以下のクリエイター(*)14組を「プロデューサー」と「スペシャリスト」というふたつのタイプに分けて紹介する冊子「OSAKA UNDER 40 CREATORS INTERVIEW」を2月29日に発行、メビック扇町事務局などで配布します。次世代のクリエイティブシーンをリードするクリエイターの思考や哲学を伝えることで、これからのクリエイターの在り方・働き方を考えるヒントとして活用していただいたり、クリエイターと共に商品の開発や、コミュニティなどの「場づくり」に関わる人々にも、事業や活動の参考にさせていただきたいと考えています。

* クリエイターとは、プロのデザイナー、写真家、イラストレーター、映像作家、コピーライター、編集者などを指します。

メビック扇町は、約13,000社のクリエイティブ関連企業が集積する大阪のクリエイティブ産業のさらなる活性化を目指し、クリエイターの情報発信やネットワークづくりのサポート、ビジネスマッチング、人材育成などに取り組んでいます。さまざまなタイプ、年代のクリエイターがいる中、当冊子では、次世代のクリエイティブシーンをリードしていく40歳以下の若手クリエイターの活躍に注目、さらに、大きく2種類のタイプに分けて紹介します。ひとつは、企画・構想段階から、ネーミング、デザイン、ブランディング、情報発信、ときには販路の獲得、拡大までを見据え、総合的な視点をもって動く「プロデューサータイプ」。もうひとつは、得意分野の技術を唯一無二なレベルにまで高め、この人でなくてはならないと周りから求められる「スペシャリストタイプ」です。



プロデューサータイプ、スペシャリストタイプを
両側から読めるダブル表紙仕様

■「個としてのクリエイターの在り方」「周りから活かされる働き方」

プロデューサータイプでは、クライアントが持つ強みを引き出し、商品の販路まで見据えたプロデュースを行う福嶋賢二氏や、「デザインで社会を変える」をミッションに掲げ、地域や社会の課題解決に取り組む西川亮氏、スペシャリストタイプでは、フェルトと平面を組み合わせた独特のスタイルで、商業イラスト・アート・雑貨といった異なる領域でボーダーレスに活動するイラストレーターのトヨクラタケル氏、漫画やアニメの作品世界をリアルに再現する新しい表現「ANIMAREAL」に挑戦する市川允也氏などを紹介。いずれのタイプも大きな組織に頼らず、常日頃から培ったネットワークを活用してプロジェクトを完成させる「個としてのクリエイターの在り方」でもあり、クライアントや周囲からの求めに、高いレベルで応えることによって生まれた「周りから活かされる働き方」「自らの特質や技術を最大限に活かす働き方」でもあります。これら実例が、クリエイターの仕事の作り方や働き方のヒントになるものと考えます。

本件に関するメディアからのお問い合わせ先

クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町

広報担当：松井

〒530-0025 大阪市北区扇町 2-1-7 カンテレ扇町スクエア 3F

TEL:06-6316-8780 (平日 10:00 ~ 21:30)

FAX:06-6316-8781

e-mail:info@mebic.com

ホームページ : <http://www.mebic.com/>

参考資料

■「OSAKA UNDER 40 CREATORS INTERVIEW」仕様

サイズ・色・ページ数：A5サイズ・フルカラー・64ページ

発行部数：3,000部

発行日：2016年2月29日

発行元：公益財団法人大阪市都市型産業振興センター

クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町

配布場所：メビック扇町事務局ほか

■「OSAKA UNDER 40 CREATORS INTERVIEW」一部抜粋



■クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町について

メビック扇町は、2003年5月に大阪市経済局（現：大阪市経済戦略局）が設置し、公益財団法人大阪市都市型産業振興センターが運営するクリエイター支援施設です。2007年4月より「クリエイティブクラスター創生事業」を開始。メビック扇町では、大阪で活動するクリエイターたちが互いに知り合い、顔の見える関係を築くための新しいコミュニティづくり、大阪に集積するクリエイティブ関連企業の活性化に取り組んでいます。